

シリーズ

人権尊重スキルを磨く
「会議のファシリテーション講座」①



私たちは力を持っている

ちょんせいこさん(人まちファシリテーション工房)

私の仕事はファシリテーターです

はじめまして。ちょんせいこです。今号から全4回で、このコーナーを担当することになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

「ちょん」という名前は漢字で書くと「鄭」。韓国の名前ですが、日本人です。結婚した高校時代の同級生が、たまたま韓国ルーツだったので、結婚後、日本国籍のまま氏だけを変更しました。今は、平仮名の「ちょんせいこ」で生活のほとんどを過ごしています。

職業はファシリテーターです。ファシリテーターという言葉を書いたことはありますか。あるいは見たこと、やってみたことはあるでしょうか。ぜひ、この連載をきっかけにファシリテーターを身近に感じ、「やってみよう」と思ったり、ファシリテーターのまなざしを持っていただけたら、とても嬉しい。そんな気持ちでスタートしたいと思います。

人権にかかわって生きてきた感じがします

中学生の夏。知的障がいをもつ友人家族と一緒に参加したキャンプがきっかけとなり、私の人生は「人権」という文字と大きくかわりあうことになりました。障がいをもつ友人と地元の松原高校に通い、3年間を共に過ごした後は、進路が閉ざされた友人達の生活の場となる共同作業所「バオパブの家」設立に、仲間と奔走しました。

大学では部落解放研究会に所属し、4回生の時には、在日朝鮮人研究会も立ち上げました。そんな私のキャンパスでのあだ名は「人権ねえちゃん」。気に入ってはいませんが、そう呼ばれても仕方ない活動ぶりでした。

大学卒業後は「バオパブの家」で約10年勤務。その後、大阪ボランティア協会での修行を経て、小さなNPOのコーディネーターとして、松原市人権文化室と協働で外国人市民のための通訳、翻訳システムを立ち上げるなど、ホントに「人権にまみれた人生」を歩んできた感じがします。

だから私にとって人権は、空気みたいな存在。つまり息をするのに必要なもの。自分の人生を自己選択、自己決定しながら自分らしく豊かに生きることを支えてくれるもの。決して特別なものではなく、あたりまえのものです。

人権尊重を論じる場こそ、人権尊重であってほしい

そんな人権畑を歩いてきた私ですが、それゆえに「人権の現場」に存在する良い面も悪い面も、たくさん経験してきました。その中で変えてゆきたい、変えてゆけるとして現在、取り組んでいることの1つが、この連載のテーマでもある会議です。

みんなで力を合わせて人権尊重の取り組みを進める時に、会議はつきものです。しかし人権尊重を論じる場であるはずの会議なのに、そのプロセスが全く「人権尊重ではない」という場面を私はたくさんたくさん経験してきました。

例えば、みんなで力を合わせたいのに、意見を求めても、誰も何も言ってくれないのは、とても辛いことです。また、逆に、時間をかけて議論をしても、結局、「鶴のひと声」ですべてが決まったり。忙しい中、やりくりして参加しているのに、始まる時間も終わる時間もガラガラして、参加者一人ひとりの時間を大切にしてもらえなかったり。本筋に同意せず、異を唱える人を「人権意識が低い人」とラベリングしたり。「とにかく、まあ、無事に終わる」ことが目標で、結論が最初から決まっていってみんなやる気がない。声の大きい人の意見だけが通る。結局何も決まらない。そもそも権威主義など。

私自身も、ある時期は強制的になったり、また、一言も意見が出せなかったりと苦い経験や反省がいっぱいあります。でも、これってやっぱりオカシイ。人権尊重を論じる場こそ、人権尊重であってほしい。みんながイキイキと議論して、共通のゴールに向かってチームワークを育みながら、取り組んでゆきたい。そう思いませんか？

ファシリテーションという「人権尊重スキル」

そんな私がたどりついたのがファシリテーターという仕事でした。ファシリテーションは人権尊重の場をデザインしたり、それ以外の場面でも人権尊重のプロセスを生み出せる、とても有効なツールです。私自身これを得て、とてもラクに人とつながれるようになりました。

ファシリテーターには前提があります。それは、一人ひとり力は持つ存在であるということ。たとえ、重篤な症状の患者であっても、日本語が全くわからない外国人であっても、ダルダルムード全開の高校生であっても、口を開けば文句ばかり言う人であっても。ファシリテーターは、その力を信じて、引き出し、融合させながら、ゴールに向かって共に歩む進行役となって、その場に存在します。

ちょっとしたつぶやきやヒラメキ、疑問や質問、不満でさえも大切な意見として受け止め、一人ひとりが安心して発言することができる安全な場を作り、会議を創造的、生産的な活動の場へと高めます。肝心なのは、ゴール(目的)とエンドユーザー(最終利益享受者)をみんなで共有すること。そして理念だけでなく、具体的な技術を持つことです。

というわけで、次回以降、会議におけるファシリテーションについてご紹介します。お楽しみに。

参考文献：「人やまちが元気になるファシリテーター入門講座～17日で学ぶスキルとマインド」(著者:ちょんせいこ/発行:解放出版社)

